

## 〈第1学年分科会 提案発表〉

言葉による見方・考え方を働かせ、考えを形成し、共有する単元の構想と展開

— 単元 すきなおはなしはなにかな ～「おはなしどうぶつえん」をつくろう～の実践を通して —

小松島市芝田小学校指導教諭 森北 育代

### 1 はじめに

読書は、国語科で育成を目指す資質・能力をより高める重要な活動の1つである。自ら進んで読書をし、読書を通して人生を豊かにしようとする態度を養うために、国語科の学習が読書活動に結びつくよう発達の段階に応じて系統的に指導することが求められている。

本学級（前任校）の多くの子供たちは、図書室の本を借りることや読み聞かせを楽しみにしているが、文章を読むことに時間がかかるため、自分で読む時にはいつも図鑑を選ぶ子供たちも数名いる。

そこで、「読むこと」に重点を置き、自分が好きな本を選んで紹介する活動を通して、読書意欲を高め、楽しんで読書をするとともに、思いや考えを伝え合うことができる力を付けさせたいと考え、本実践研究に取り組んだ。

### 2 研究の方向

(1) 考えを形成する過程における指導の工夫

- ・学習者の目標設定
- ・ワークシートや学習の手引き

(2) 考えを形成し、共有する学びの評価の工夫

- ・学習の記録

(3) 言語能力を育てるための工夫

### 3 研究の実際

(1) すきなおはなしはなにかな ～「おはなしどうぶつえん」をつくろう～の授業実践

単元の学習計画

第1次 動物の出てるお話を読み、「おはなしどうぶつえん」を作る学習計画を立てる。

第2次 読んだ本の中から好きな本を選び、登場人物といっしょにどんなことをしたいか、どの文章からそう思ったのか（本文の視写）、読んで思ったことをガイドカード（紹介カード）に書き、友達と本の紹介をし合う。

第3次 動物ごとに貼って「おはなしどうぶつえん」を作り、単元の振り返りをする。

(2) 言語能力を育てる常時指導

- ・ことばあつめ
- ・音読・暗唱・視写タイム
- ・読み聞かせ・おすすめの本

### 4 おわりに

一人一人の学びが深まるよう、単元・授業を進める過程で、言葉による見方・考え方を働かせる、考えを形成する、共有することを繰り返すことを意識して実践に取り組んだ。「次は自分の本でがんばりたい。」「違う本でも書きたい。」「友達の本を読んでみたい。」という声を聞くことができ、学習者が興味・関心・必要感をもつ「おはなしどうぶつえん」をつくったのしもうという目標設定は、意欲的・主体的に学びに向かう態度を育てることに効果的であった。今まで読書の時間に図鑑ばかりを選んでいた子が、この単元を通して少しずつ自分で絵本を読むようにもなった。これからも単元の構想と展開をより工夫し、一人一人の学びが深まるよう実践を続けていきたい。